

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立大宮第一小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
「学校教育目標」(長期目標) ◆自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成 「目指す学校像」 ◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校 【児童】 ◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校 【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校 【保護者】 ◇他の地域に誇れる地域とともにある学校 【地域の方】		○ICTの活用がさらに進み、まとめたり表現したりする学習での活用ができてきている。 ○特別活動の異年齢活動等も活用し、協調性・自制心・やり抜く力などが身に付いてきている。また、日々の学級経営の中で多様性を認め、居場所のある学校づくりに向けて組織的に取り組んでおり、「安心して学習ができる」「学校が楽しい」「自分には良いところがある」の項目では多くの児童が肯定的評価をしている。 △今年度のDRTの結果では、特に国語において厳しい結果が見られた。学力差の課題を解決する視点からも、学習の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする等、児童が主体的に学習に取り組む自己調整学習を積極的に取り入れる必要がある。 △日々の授業ともつなぎ個別最適な学びの実現を目指した家庭学習の取組を工夫する必要がある。		「一人ひとりが自分の良さを発揮し、将来の自立に向けてつながりながら力を高めることができる学校経営を行う」 ・子どもたちをつなぎ、「心理的安全性」のある学級を目指す。その学級経営の基礎の上に主体的に学習に取り組む。自己調整学習を積極的に進め、一人ひとりの学びを自己調整する力を最大限高める。 ・保護者との丁寧な連携を進め、将来の自立の観点で、児童へのかかわり方について信頼と理解を得ていく。 ・特別活動の研究によりつけてきた力を、さらに積み上げるとともに、思いやりやつながりのある人間関係の構築を図る。 教職員のキーワード 『互いを認め合い 多様な人とつながり 未来を創造する児童の育成』 ―自分が変わり 子どもを変える―	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題（自己評価）	学校関係者評価
学校教育指導の重点、 諸計画及び各学園の重点等 を基盤として	教育課程 学習指導	1 ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 2 総合的な学習の時間では、「丹後学」の内容も含め、児童が主体的に課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の学習に取り組み、探究的な学習となるよう充実を図る。 3 教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりを進める。その際は、「大宮学園授業づくりの視点9」の活用を図る。		○新たな研究実践のスタイルで、教師が「主体的・対話的で深い学び」を目指した研修を推進した。具体的な研究テーマによってグループを設定し、グループ研究を基本として学び合い、中間発表・最終発表会において、全体への発信をしたことでさらに学びが高まった。学習や家庭学習によるICTの活用も、定着してきた。 ○外部講師を招聘し、一人ひとりが学びの主体となって学びを進める授業（自己調整力の育成等）を目指し、各学年が平均程度の結果となっている。 ○総合的な学習の時間では、児童が主体的に課題を設定し、解決に向けて家族や地域とのつながりを生かして取り組み、たくさんの発見や気づきを学ぶことができた。 ○特別活動の異年齢活動等も活用し、協調性・自制心・やり抜く力などが身に付いてきている。また、日々の学級経営の中で肯定的な評価を大切に心理的安全性のある学級作りが進んだ。 ○多様性を認め、居場所のある学校づくりに向けて、組織的に取り組み、「安心して学習ができる」の項目では約92%、「学習したことはよくわかる」の項目では約95%の児童が肯定的評価をしている。	○先生方には、丁寧に指導していただいている。 ○ペアや小集団で学び関わり合う活動は大切にしていきたい。 ○タブレットを使った学びは、これからの時代に必ず必要であるので、積極的に活用してほしい。 ○学校と地域がつながり、丹後のよさに子どもたちが気づけるような学びが実現できることを期待する。

	生徒指導	1 丁寧なアセスメントと個に応じた支援による不登校の未然防止に努める。 2 いじめ等の未然防止のための積極的な生徒指導の充実に努める。	- 全ての児童にとって居場所があると感じる魅力的な学校・学級づくりを進める。専門家の意見を踏まえた丁寧なアセスメントのもと、有効な支援方法を全教職員で共有し、一致した指導・支援を行う。 - 子どもの変化や小さなサインを逃すことのないよう、日々の観察をし、何でも話せる信頼関係を築き、いじめ等の未然防止に努める。アンケートの実施はもちろん、地域・保護者とも連携していじめを見逃さない体制の構築を図る。	○不登校傾向の児童への支援は、常に心理的な安心や居場所の確保に努め、教育相談部を中心に保護者との連携を大切にして取り組んだ。その結果、少しずつ前向きに成長する児童が増えた。 ○いじめ等の生徒指導事象についても、トラブル等の事象はあったが、被害児童に寄り添った確実な事実確認と保護者連携を進め、解決を図り、その後も丁寧な観察を継続している。 ○児童アンケートでは、「自分に良いところがある」と答えた児童が 88%以上であった。	○トラブルから学べるのも学校。成長のためには大切なことでもある。 ○つながりの中で、未来の自分に自信がもてるとよい。
	健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかわる課題改善に向け、取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、心身ともに健康な体づくりに取り組む。	- 体育の授業と運動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組を行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすることで、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする耐力（意欲）を高める。 - 休み時間の積極的な異年齢遊びを通して、安全に楽しく誰とでも遊べる経験を増やす。	○普段の体育の授業やマラソン大会の取組、縄跳びの取組等体力づくりを全校的に進めることができた。過程を大切にした指導により、自分の決めた目標に向かい意欲を向上させることができた。 ○保護者との丁寧な連携を図り、子ども同士のつながりを大切にして居場所を創ることでどの子も学校に来ようとする気持ちを持ち、登校できている。	○地域で外遊びをする子どもの姿を見なくなった。体力面をつけてほしい。
	(A) 特色ある学校づくり	1 これまでの特別活動の研究実践の成果をさらに積み上げ、誰もができる将来の社会的自立を目指した教育活動の在り方について、実践を重ねる。	- 学級活動や児童会活動等の授業や活動の考え方や指導の在り方について理論研究を進める。また、すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級となる人間関係づくりを進める。 - 児童の姿を通して、特別活動の取組の成果を共有し、さらに、発達段階に応じた役割分担や自己決定の場を通して達成感や満足感を高める。	○学級活動の研究や実践から、児童が主体的に自他を尊重して話し合い活動を進めることができ、温かな人間関係づくりの文化が根付いてきている。 ○学級活動や児童会活動、学校行事、人権教育の取組などを通して、集団での学び合いや支え合いに取り組んだ。児童アンケートの「学校が楽しい」では、約 90%の児童が肯定的評価をしている。	○異年齢の中でのリーダーとしてとても頑張っている。しかし、もっと個性が前面に出ていてもよい。
	(B) 情報活用能力 (ICT 活用)	1 電子黒板や一人 1 台のタブレットを活用した、授業改善を進める。 2 情報モラルについては、実際に使用しながら細やかに実態を把握し、課題についてはその都度よりよく使うためのルールを考えさせながら身につける。	- 具体的にどのような教科や単元、場面等で活用しているか実践交流を行い、さらに使用範囲を広げながら効果的な活用を目指していく。 - 学園の取組の中でも、オンラインでの交流を行うなど、活用を図る。 「個別最適な学び」の実現を意識しながら、少しずつ家庭学習におけるタブレットの活用を進める。それと同時に、情報モラルにおける指導を低学年から発達段階に応じて行い、児童が適切に ICT を活用して情報社会を安心・安全に生き抜くための能力や態度を育成する。	○全学年で、どのようなことに ICT が活用できるのかを実践研究することができ、教職員と児童の活用スキルがさらに高まった。 ○学園での情報モラル研修会を行い、児童生徒だけでなく、保護者や教職員も最新のトラブル等について知り、正しく使う視点での指導に活かすことができた。 ○タブレットの持ち帰りを進め、教科書やドリルだけに頼らない家庭学習の内容に取り組み、「個別最低な学び」への意識がさらに進み、何を学ぶことが必要かを考える機会となった。	○タブレットの活用がさらに進むとよい。今後もネット社会で生きていく子どもには、危険性も知っておいてほしい。
	次年度に向けた改善の方向性	※ 児童が主体的に課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の学習に取り組み、探究的な学習の充実に努める。 ※ 一人一人の可能性を最大限引き出す教育を進めるため、学習の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする等、児童が主体的に学習に取り組む（学びの自己調整）力を高める指導を進める。さらに、タブレットを活用して、日々の学習とともつなぎ個別最適な学びの実現を目指した家庭学習の取組を工夫する。 ※ 全ての子どもにとって心理的安全性のある学級、学校の実現を目指し、居場所のある環境で力を発揮できるように取り組む。 ※ 今後も保護者地域との連携を図り、地域を知り、地域の良さを生かした探求的な学びを進め、子どもに力をつけていく。			○保護者もわからないことがある。一緒に学べるとよい。 ○学校だよりや HP を楽しみにしている。